

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	270201312		
法人名	医療法人弘愛会		
事業所名	グループホームふれあい温泉		
所在地 (電話番号)	〒036-8252 青森県弘前市旭ヶ丘二丁目6番地の4 (電話) 0172-35-8282		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 10月 18日	評価確定日	平成 20年 1月 15日

【情報提供票より】(平成 19年 9月 14日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	11 人	常勤 9人, 非常勤 2人, 常勤換算	9.1人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての 階 ~ 2 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	17,640 円
敷金	有( 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,350 円			

### (4) 利用者の概要( 9月 14日現在)

利用者人数	16 名	男性 4 名	女性 12 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名
要介護3	7 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	85.8 歳	最低	71 歳
		最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人弘愛会 弘愛会病院・弘愛会クリニック
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高台に立地され周りは閑静な住宅街となっている。居室の窓は大きくそこから見える景色は、城下町を一望でき住み慣れた地域をいつも間近に感じ穏やかに過ごせるようになっている。法人母体が積極的に取り組まれている接遇の研修では全職員に浸透し、入居されている方々の安心感につながっている。グループホームの運営理念を管理者や全職員は大切にされ、家庭と変わらぬ環境づくりやプロとしてのサービス提供など至るところで確認ができ、それが入居されている方々や御家族の安心につながっており穏やかに日々の生活を送られている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>宿泊施設を改装されているためハード面で改善が困難な面もあるが、前回の評価で課題となった部分に対し手すりや段差解消の工夫、共用空間の明るさの改善など積極的に行われている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>最初は管理者、計画作成者で作成するがそれを全職員で確認することで意識改革につながりサービスに結びついている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>参加者が多く、グループホーム内のサービス等について活発な意見を外部から頂く機会となっており地域に開かれたグループホームとなりつつある。また町内会の行事へ参加するなど交流も図れ地域密着型サービスとして徐々に基盤が構築されてきている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)</p> <p>毎月家族へは個々の入居者の様子を伝えたりグループホーム内の職員の変更があれば伝え安心感がもてるようにしている。面会時や運営推進会議に参加された家族へ意見等を聞くように努め、話し合われたのちに運営に反映し報告している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町会長から行事の案内がくれば参加し、また参加後町会長より入居者の方々に気遣うなど配慮が見られ関係は良好である。また散歩時は近所の方との交流も保っている。現在は地域の方々への認知症の普及などへの取り組みはされていないが前向きに検討していく予定である。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初、職員全員で何が大切かを考えた独自の理念が掲げられている。これから地域密着型サービスとしての理念の見直しを考えている。		見直しの必要性を職員全員で確認し、地域や入居者のニーズ、事業所の状況の変化によって現状にあった理念に作り変えていくことが望まれます。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングにおいて、問題点があると理念に立ち寄り、掘り下げて話し合いが持たれ、言葉掛け、態度等、日々のサービスの場面において理念が反映されている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域住民の一員として、町内会に加入しており、地域の活動に関わりを持ちたいと積極的に考えている。町内会から意見を聞いたりしながら、関係の構築を深めている段階である。地域に向けて、認知症の普及活動は現在消極的である。		今後地域や、町内会の活動参加する機会を利用し、認知症の普及活動等の地域活動や役割を担っていかれる事が期待されます。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価をし、話し合いがもたれ評価の意義について理解されている。外部評価後も改善に向けて皆で検討され、ハード面では無理なこともあるが積極的に検討し実践されている。		
5	6	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に定期的開催されている。参加者から、毎回サービスについて率直な意見が出され、事業所として改善に向けた具体的な取り組みにつなげられている。		
6	7	市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の参加と共に管理者を中心に市町村担当者と連絡を取り合いながら、事業の実情やサービスの取り組みを伝えている。		
7	8	権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会を開催し職員が権利擁護に対して理解をし、必要に応じて利用者の支援に結びつけられるような体制がある。		
8	9	虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常のサービスを通して、虐待についての理解や話し合いは行われてはいるが、高齢者虐待防止関連法については学ぶ機会をもっていない。		今後職員全体で勉強会や外部研修を通して高齢者虐待防止関連法の理解を深めることが望まれます。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は十分に時間をとり、丁寧に説明が行われている。特にサービス内容や、利用料金、医療連携体制等について詳しく説明し同意を得るようにしている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月近況報告として、利用者毎に担当者が日常生活状況や外出時の様子、健康状態も含めコメントを入れながら写真入りで月初めに送付しており、御家族から喜ばれている。また同時に金銭管理について、明細や領収書の報告が行われている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議において、御家族の代表の方が参加されており、御家族の立場で積極的に意見が出されている。またその意見をサービスに反映させている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の交代や離職する場合は、利用者個々に対して、ダメージの少ない対応をしており、御家族には面会時または広報を通して不安にならないよう十分に配慮されている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画をもとに、法人全体の研修が実施されており、また職員のスキルアップが図れるよう、外部の研修に参加されている。研修後は職員が共有できるよう、研修内容を報告する機会を持っている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的に外部研修に参加することで、同業者と交流を持つことにより、意見や経験をケアに活かし質の向上を目指している。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に向けて不安にならないよう、法人内のデイサービスを利用しながら馴染みの関係を構築されたり、すぐ入居が決まった利用者の方には、見学して頂いたり、職員が自宅に出向いたりしながら十分に話し合い利用開始の調整を行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者の方の尊厳や生活暦を十分に理解され、人と人との関わりを大切にケアを行っている。生活場面においても、職員や利用者のお互いの会話から「思い」や「楽しみ」が伝わり、支えあう関係が構築され和やかな場面が提供されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や御家族から生活暦を十分に理解、把握されている。職員は本人の視点に立ってから意見を出し合い、その人らしく生活する為に行動や表情からその真意を推測したり、柔軟に対応されている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	できる限り在宅で暮らしている状況を継続して頂きたいとの理念の考えをもとに、センター方式を利用し、本人、御家族、職員、看護師と十分に話し合いアセスメントを含め、思いや意見を介護計画に反映されている。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画期間の見直しはもちろん、実情やその状況に応じた介護計画の見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、入居者にとって負担となる受診や、入院の回避等、本人の健康面の安定、維持の為に安心して生活できるよう支援されている。また看護師は、個々の健康において毎月ケアプランが作成されており、ケアに反映され御家族の安心につながっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医で医療を受けられるよう支援されている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	方針として重度化した場合、終末期の対応ができるまでは至っていないが、入居時や看護師が毎月計画を立てている医療連携支援プランを説明してまた随時必要な場面において十分に話し合いが行われている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人において、開設時より毎月全職員対象とした接遇研修を開催されている。日々の関わりの場面においても、職員の対応は接遇研修を根本として動作が美しく、表情等も訓練されており、安心感が感じられる。また記録等の書類はスタッフルームから持ち出さないなど徹底されている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、入居者の体調に合わせて個々のペースを尊重されている。入居者がその人らしく、趣味を活かしたり、思い思いの場所で穏やかに生活が送れるよう支援されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備、片付け等の役割分担ができており、またそれぞれが楽しく食事を頂いおり、食後もみんなで団欒しゆっくり過ごされている。職員と一緒に座らず準備、片付けをされている。</p>		<p>同じ食事を頂くことが事情で難しいようであればそれに変わる工夫など検討して頂き、入居者と共に食事を楽しむ支援を期待します。</p>
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>1階に浴室があり、移動しなければいけないが、毎日入浴している方もおり、一人ひとりに合わせた入浴支援を提供されている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>個々の生活歴を十分に把握され、趣味や得意分野で力を発揮できるような言葉掛けや、環境を提供し張り合いがもてるような生活ができるよう支援している。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>居住部分が2階ということもあり、積極的に外出を提供している。近くへの外出であったり、希望も聞きながら遠出を計画する等、入居者の方も楽しみにされている。またその様子がアルバムに整理されており、入居者と職員が寄り添い、笑顔が印象的である。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束について理解し、拘束のないケアを実施しているが、介護保険指定基準における拘束については、職員の共有認識まで図られていない。</p>		<p>全職員が介護保険指定基準における具体的な行為を内部研修等において、身体拘束の内容とその弊害を認識し、身体拘束のないケアの実践の継続が望まれます。</p>
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>居住部分が2階ということもあるが、施錠したりせず安全に過ごせるよう見守りや一緒に付き添うなど工夫し対応されている。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>定期的に職員の通報訓練、緊急連絡網の確認、災害を想定しての職員の訓練は実施しているが、入居者や地域の方、消防等の協力訓練までは実施されていない。</p>		<p>運営推進会議等を通して、今後地域の方々にも協力体制を依頼したり、消防署の協力を頂きながら避難誘導ができる訓練実施の検討が望まれます。</p>
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>管理栄養士が献立を作成し、栄養のバランスはとられているが、法人内のデイサービスと昼食が同じメニューな為、行事の兼ね合いから2日同じメニューが続く日がある。</p>		<p>出来るならば重なる場合はグループホーム独自のメニュー等の検討が望まれます。</p>
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>起こりうる感染症について、マニュアルが作成されており、また法人内での研修も開催している。季節によって流行が予想される感染症についてはその都度ミーティングで話し合われている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b></p>					
<p><b>(1) 居心地のよい環境づくり</b></p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自然の光が入りにくいが、照明や環境を整備することにより、居心地のよい空間になっている。また季節を感じられるよう装飾されているなど五感に訴えた空間づくりがされている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホテルの部屋がそのまま入居者に提供されており、畳部分と、フローリング部分があり開放的である。採光、景色もよくホッとするような居室となっている。家具等の持ち込みが多く家庭と変わらないその人らしい居室づくりとなっており居心地よく過ごせるよう支援されている。</p>		

 は、重点項目。